第６学年○組　国語科学習指導案

日時：令和４年○月○○日（○）第○校時

在籍児童数：○○人

授業者：○○　○○

1. **単元名**表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

**教材名**「『鳥獣戯画』を読む」情報「調べた情報の用い方」「日本文化を発信しよう」

**２．児童の実態と本単元の意図**

1. 児童の実態について　　※アンケート省略

本学級の児童は、国語の学習について７割の児童が「好き（「どちらかというと好き」も含む）」と答えている。特に友達の発表を聞いて、別の考え方を知ったり共感できたりすることに関心があると答えた児童が多い。考え方を広げ、理解を深めようとする児童がいることが分かる。一方で、「国語がきらい」が３割近くいて、特に「発表をすること」や「文章を書くこと」など、自分の考えを伝えることに抵抗がある児童がいた。また、今年度実施した全国学力学習状況調査の結果から、「書くこと」の内容において正答率が低く、記述式の無回答率も高かった。

第６学年となり、「読むこと」の学習では、「時計の時間と心の時間」で、筆者の考えを読み取るために、図表に関係のある文を選ぶことはできたが、 筆者の主張とそれを支える事例の工夫に気付くことが難しかった。また、「森へ」では、筆者の思いを情景描写や文章表現の工夫（比喩法・擬人法）などから読み取り、新聞にまとめる学習に取り組んだ。「書くこと」の学習では、「わたしたちにできること」で提案文を書く学習において、文章で表すことや構成を考える学習に取り組んだ。教科書の例を参考に、型を知ることで多くの児童が提案文を作成できたが、書くことへの苦手意識から一部の児童につまずきがあり、学習に取り組みにくい児童の姿も見られた。そこで学年の取組として、朝自習の時間に、新聞記事の要約や自分の考えを書いてきた。また、本時のパンフレット作成につなげるために、理科の「動物のからだのはたらき」で、学習のまとめにリーフレットを作成して書くことの経験を積ませた。

本単元では、「『鳥獣戯画』を読む」を筆者の表現の工夫を捉えて読み、そこで学んだ表現の工夫を活用して、日本文化について調べたことをパンフレットに書く力を高めていく。

1. 単元と教材について

本単元では、【読む】「『鳥獣戯画』を読む」【調べる】「調べた情報の用い方」【書く】「日本文化を発信しよう」の３教材で構成された複合単元である。言語活動として「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして日本文化のパンフレットを書こう」が設定されており、自分の好きなことや興味のあることを、学校図書館やインターネットを活用して更に深く調べ、報告する活動を用いる。

　　　また、「『鳥獣戯画』を読む」は、１２世紀末に生み出された「鳥獣人物戯画」の一場面について、高畑勲氏がアニメーション監督の視点で書いている説明的文章である。筆者の主張や、ものの見方、論の展開を読み取る学習を通して、自分のものの見方を広げていくことをねらいとしている。

本単元で身につけたい力は、文章構成や段落同士の関係を確かめて筆者の考えを捉える力、筆者の論の展開や表現の工夫を生かして、自分の考えを伝える力である。そこで、第二次では「『鳥獣戯画』を読む」を読み、絵と文章とを対照して、筆者が何に着目し、それをどのように評価しているのか、筆者のものの見方や考え方、そして論の進め方を捉えて読んでいく。また、分かりやすく伝えるための書き出しや文末の表現の工夫、体言止めや比喩表現など、読者を引き込む表現の工夫の効果についても学ばせる。

児童に主体的に取り組ませるために、まずは自分で考える時間をつくり、選んだ理由も考えさせたい。そして、全体で確認することで児童の考えを伝えたり、分からなかった児童への支援をしたりしていく。また、児童全員に発表の場をつくることや自分の考えを広げたり深めたりする点から、グループ内での発表を行い、対話的で深い学びにつなげたい。

第三次では、第二次で見つけた工夫と、自分が選んだ日本文化について調べる本を読んで見つけた工夫と効果も生かしてパンフレットに表現させていく。また、下書きをグループで読み合う活動では、付箋（青）良い点、付箋（赤）改善点を書き、記事の表現や内容を推敲していく。そして、交流して気付いたよさや自分のパンフレットに生かせるようにしたい。

本校の研究に関連した取組として、「ワンページ・ポート・フォリオ」を活用して学習を進める。単元全体で何を学習すればよいかを明確にすることにより、児童が必要感をもって学習に取り組めるようにする。また、教師からのフィードバックを行いながら繰り返すことで、児童の伸びを見とることができたり、指導と評価の一体化を図ったりすることができると考える。

**３．研究主題との関わり**

研究主題　「言葉による見方考え方を働かせ、自分の思いや考えを表現できる児童の育成」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　～「書くこと」指導を通して～

【目指す児童像】

|  |
| --- |
| ①低学年…自分の思いや考えを自信をもって書いて伝えられる子中学年…言葉選び、自分の思いや考えを自信をもって書いて伝えられる子高学年…言葉のもつ良さに気付き、自分の思いや考えを自信をもって書いて伝えられる子②書くことの楽しさを味わい、生き生きと書くことができる子 |

　＜仮説①＞　学習内容を明確にし、指導と評価の一体化を図る授業を行えば、児童が文章の書き方を身につけ、自信をもって文章が書けるようになるのではないか。

手立て１：ワンページ・ポート・フォリオの活用

・一枚の紙に学習のめあてを書いたワークシートを使い、児童は毎時間のまとめを自分の言葉で書く。

授業者がねらいとする学習内容を児童が理解できているかを１時間ごとに確認することができ、児童一人一人の学習状況を確認することができる。

手立て２：振り返りシートの活用

　　・文章を書くことが苦手な子の参考になるよう、まとめや振り返りがよく書けた子の文章を紹介する。

　　・３つのスタンプリアクションを使用し、語彙力・文章力の向上を図る。

　　手立て３：見本の提示

　　・最終的なゴールを提示することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

　　手立て４：並行読書

・鳥獣戯画の読み取りの学習と並行して、日本の伝統文化に関わる読書を進め、パンフレットの素材となるものを見つけさせる。

・見つけることが苦手な子の参考にもなるように、各自で付箋を貼っていく。

　＜仮説②＞　日常的に児童が「書く」活動が楽しいと思える工夫を取り入れていけば、児童が、文章作りの楽しさを感じ、進んで表現できるようになるのではないか。

　　手立て１：掲示物の作成

　　・今まで習ってきた言語表現が常に見えるようにし、学習内容との繋がりを持たせる。

　手立て２：ゲーム感覚での活動

　　・遊びの要素を取り入れた活動を通して、書くことへの興味関心を持たせる。

　　　　　例：「私は誰（何）でしょう」クイズで、表現の仕方（比喩表現など）に工夫させる。

**４．単元の目標**

（１）筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。　【思 Ｂ（１）イ】

（２）引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【思 Ｂ（１）エ】

（３）目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【思 Ｃ（１）ウ】

（４）日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。

【知（３）オ】

**５．本単元で取り上げる言語活動**

学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して調べた情報を知らせるパンフレットを作る。

(関連：言語活動例ア)

**６．単元の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（３）オ
 | 1. 「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。Ｂ（１）イ
2. 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。Ｂ（１）エ
3. 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。Ｃ（１）ウ
 | 1. 文章と図表などを結びつけて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。
 |

**７．指導と評価の計画**　（全１１時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 主な学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点・評価 |
| 第１次 | １ | 〇単元のめあてとリード文を読み、単元のゴールから言語活動のイメージをもつ。 〇パンフレットのテーマの日本文化にはどんなものがあるかイメージマップを書いてイメージを広げる。〇パンフレットを作るために必要なことを考え、学習計画を立てる。 | ・筆者高畑勲について・学習の計画と見通し・伝える相手（ＡＬＴ、保護者、クラスの児童）と方法（パンフレット）・パンフレット全体の構成や表現 | ・教材文の題名から、絵を「読む」とはどういうことかを考えさせたり、単元後半にパンフレットを作ることを提案したりして課題意識をもたせる。・日本文化のイメージマップを書くことで、日本文化に興味をもたせ、どのテーマでパンフレットを書きたいか決めさせる。 |
| 第２次 | ２ | 〇今まで学習した説明文を想起させ、説明文とはどんな文章か、説明文の学習でどんなことを学んだか共有する。〇文と絵を結び付けて照らし合わせながら、筆者がどう「鳥獣戯画」を読んでいるかを捉える。〇筆者の「絵についての評 価」と「絵巻物についての評価」を読み取る。 | ・既習事項（説明文の組み立て【初め、中、終わり】段落・筆者の考え・図表やグラフ、絵、写真の活用）・筆者が『鳥獣戯画』の絵で着目しているところ・絵についての評　価・絵巻物の評価 | ・筆者が絵のどの部分を取り上げ、何に着目しているか、本文に線を引かせるなどして読み取らせる。 ・「絵」と「絵巻物」に対する評価が分かる叙述に、別々の色を使って線を引かせて、視覚的に捉えられるようにする。【思考・判断・表現】③ワークシート・ワンページポートフォリオ文章と図表などを結び付けて、必要な情報を見つけ、筆者のものの見方や考え方を的確に捉えているか確認する。 |
|  | ３ | 〇筆者の書き方の工夫「論の展開」を読み取り、筆者の意図を考える。〇同様に並行読書の本にも取り組む。 | ・筆者の「論の展開の工夫」を見つける観点 | ・筆者の「鳥獣戯画」に対する評価や捉え方ではなく、その魅力の伝え方（書き方の工夫）に焦点を当て気付かせるように助言する。・筆者の表現の工夫（３つの観点）に色分けしてまとめることで、視覚的に捉えさせるようにする。【思考・判断・表現】③ワークシート・ワンページポートフォリオ文章と図表などを結び付けて、必要な情報を見つけ、筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い方や表現の工夫、論の進め方との関わりを捉えているか確認する。 |
| ４ | 〇筆者の書き方の工夫「絵の示し方の工夫」について読み取り、筆者の意図を考える。〇同様の観点で並行読書の本の付箋を書く。 | ・筆者の「絵の示し方の工夫」を見つける観点 | ・筆者の表現の工夫（３つの観点）に色分けしてまとめることで、視覚的に捉えさせるようにする。【思考・判断・表現】③ワークシート・ワンページポートフォリオ文章と図表などを結び付けて、必要な情報を見つけ、筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い方や表現の工夫、論の進め方との関わりを捉えているか確認する。 |
| ５本時 | 〇筆者の書き方の工夫「表現の工夫」について読み取り、筆者の意図を考える。〇筆者の工夫とその効果を まとめ、交流して気付いたよさや自分のパンフレットに生かしたいことを振り返る。〇同様の観点で並行読書の本の付箋を書く。 | ・筆者の工夫とその効果 | ・筆者の表現の工夫（３つの観点）に色分けしてまとめることで、視覚的に捉えさせるようにする。・自分の考えをもつ時間を確保し、主体的に取り組ませる。・グループでの話し合いを通して、児童全員が発表できるようにする。また、他の児童の考えを聞くことで、対話的で深い学びにつなげる。【思考・判断・表現】③ ワークシート・ワンページポートフォリオ文章と図表などを結び付けて、必要な情報を見つけ、筆者の伝えたいことと、絵などの資料の 使い方や表現の工夫、論の進め方との関わりを捉えているか確認する。 |
| ６ | 〇「調べた情報の用い方」を読み、著作権への理解を深める。 〇並行読書で読み進めてい た本の筆者の工夫とその 効果について付箋にまとめる。〇書いた付箋を整理し、筆者の工夫とその効果を交流する。〇交流して気付いたよさや自分のパンフレットに生かしたいことを発表する。 | ・引用の仕方（文・図・写真）・出典・調べた内容の記録の仕方・並行読書における筆者の工夫とその効果 | ・日本文化のテーマが決まった後、関連図書を並行読書で読み進め、筆者の工夫とその効果について気付いたことをイメージマップにまとめていったものを読み返しながら付け加えさせるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】①活動の様子・ワンページポートフォリオ・イメージマップ日本文化に興味をもち、文章と図表を結び付けて必要な情報を読み取ることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって本を選んで読もうとしているか確認する。 |
| 第３次 | ７ | 〇パンフレットの目次やページ数、内容をグループで話し合い、構成を決める。〇それぞれの担当箇所の段組み、見出し、絵や写真などの紙面の構成を考え（割り付け）、前時までで調べたりないところを本やインターネットを用いて調べる。 | ・全体の構成の仕方・割り付けの仕方・調べた内容の記録の仕方・情報の取捨選択 | ・構成で一人一人の内容や分担を決めることで、調べ学習が明確なねらいのもとに行えるようにする。・工夫や効果についてまとめてきたものをもとに、割り付けを工夫させる。 |
| ８ | 〇割り付けに沿って下書き をする。  | ・記事の表現や内容の工夫・図や写真の生かし方・清書の仕方・表紙（題名・目次・写真など）・裏表紙（編集後記や参考にした資料の出 典等） | ・工夫や効果についてまとめてきたものをもとに、論の進め方や文章表現、絵や写真の示し方を工夫させる。・表紙、裏表紙なども含め、グループ内で内容を確認し、パンフレットの表現の工夫を次時の交流で伝えられるようにする。【思考・判断・表現】①下書き筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 |
| ９ | 〇下書きをグループで読み 合い、付箋（青）良い点、付箋（赤）改善点を書き、記事の表現や内容を検討する。〇交流して気付いたよさや 自分のパンフレットに生 かしたいことを発表する。 | ・付箋を使った検討の仕方・検討の観点（記事の表現や内容の工夫、図や写真の生かし方） | ・工夫や効果についてまとめてきたものをもとに、論の進め方や文章表現、絵や写真の示し方などの良い点や改善点を書き、伝え合う。【思考・判断・表現】②下書き引用したり、絵や写真などと文章の組み合わせを考えたりして、読み手に日本文化の魅力が 伝わるように書き表し方を工夫しながらパンフレットを書いているか確認する。 |
| 10 | 〇下書きに沿って清書をし、 表紙裏表紙なども含めパンフレットを完成させる。 | ・全体構成の確認 | ・全体の構成で足りない箇所がないか確認させながら丁寧に取り組ませる。【主体的に学習に取り組む態度】①清書構成や表現を工夫して書き表すことに粘り強く取り組んで、パンフレットを作ろうとしているか確認する。 |
| 第４次 | 11 | 〇それぞれのパンフレット に対する感想を、交流カードを用いて伝え合う。〇単元の振り返りをする。 | ・交流カードを使った交流の仕方・交流の観点 | ・振り返りの観点を示し、単元全体を振り返るようにする。【主体的に学習に取り組む態度】①活動の様子・交流カード学習を振り返り、これから日本 文化にかかわる本を読んだり、 絵や写真などを用いた文章を 書いたりするときに生かして いこうとしているか確認する。 |

**８．本時の学習指導（５／１１）**

（１）目標

○筆者の「表現の工夫」を捉え、その効果について考えることができる。

【思考・判断・表現　Ｃ（１）ウ】

（２）評価規準

○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 　　　　　　　　　【思考・判断・表現】

（３）展開

筆者の「表現の工夫」を見つけ、その効果を考えよう。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 学習内容 | 指導と評価の創意工夫 | 時間 |
| １　前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認し、学習活動への見通しをもつ。 | ○前時の振り返り○本時の課題の確認 | ○前時に学習したことを振り返る。○見通しをもって意欲的に臨めるように、本時の学習課題を提示する。○筆者がどんな表現の工夫をしているかを考えさせることで、その後のパンフレットを書く時にも生かせるように助言する。 | ３ |
| ２　筆者の「表現の工夫」が書かれたところにサイドラインを引き、その効果について考える。○１段落目を例に挙げ、筆者の「表現の工夫」を使っている箇所を見つける。３　サイドラインを引いた箇所について全体で確認する。○サイドラインを引いた箇所を発表する。４　２～７段落目を読み、筆者の「表現の工夫」を見つけ、その効果について考える。○サイドラインを引いた箇所から、工夫の効果を考える。〈期待される児童の反応〉・書き出し→セリフがあり、もっと読みたくなる。おもしろさを出し、興味をひかせる。・体言止め→言い切った言葉にインパクトが残る。言葉に迫力をもたせる。・短文によるリズム→調子よく読ませたい。変化を持たせ、飽きさせない。・擬人法→イメージが伝わりやすい。文章が生き生きする。・語りかける書き方→読み手を引き込む。飽きさせない。５　「表現の工夫」を確認し、その効果をグループで話し合う。○自分の考えをグループで伝え合い、考えを広げる。６　「表現の工夫」の効果を全体で確認する。○グループで話し合ったことを発表する。７　本時のまとめを書く。○ワンページ・ポート・フォリオのワークシートに自分の言葉でまとめる。「表現の工夫」を使うと、読み手を引き付ける効果がある文になる。８　並行読書を使い、「表現の工夫」を用いて文を書く。 | ○表現の工夫・書き出し・体言止め・語りかける書き方・短文によるリズム・擬人法　など○考えの共有○「表現の工夫」をしている箇所とその効果○話し合い○考えの共有○本時のまとめ○「表現の工夫」の活用 | ○これまでの学習から「表現の工夫」の仕方にはどんなものがあるか確認する。○「表現の工夫」に視点を絞って読ませる。○これまでと色の違った線を引かせることで視覚的に捉えられるようにする。○サイドラインを引いた箇所を確認し、考えを共有させる。○「表現の工夫」をするとどんな効果があるか考えさせる。○全員が発表できるように配慮する。そのために、机間指導でつまずきのある児童への線を引いた箇所から自分の考えがもてそうなところを見つけるよう助言をする。○自分の考えを明確に伝えられるように「〇〇は、〇〇のような表現がさせている。筆者は〇〇ために表現したと思う。」などの発表の仕方を伝えておく。○グループで話し合ったこと全体で確認し、考えを広げ深めさせる。○短冊ごとに黒板にまとめる。〈評価規準〉【思考・判断・表現】 ③〈評価方法〉 交流の様子や態度、ワークシート ・筆者の工夫とその効果や、友達との考えのよさや違いに気付いている児童をＡとする。〈「努力を要する」状況（Ｃ）への手立て〉・それぞれの意見をメモさせ、自分と同じ考えか、どこが違うかに着目して考えるように助言する。○「表現の工夫」とその効果を簡潔にまとめさせ、自分のパンフレットに使いたいものを考えさせる。○「表現の工夫」の何を用いるか考えさせる。○並行読書を読みながら、本時の学習で学んだことを生かせそうな箇所を見つけて付箋に書き、貼らせる。 | ７７４１０３８ |
| ９　本時の振り返りを書く。○ワークシートに自分の言葉で書く。〈期待される児童の振り返り〉・書き出しの工夫をすると、読み手がどんな話かなと興味をもつ効果があると分かった。・読み手に言葉を強調したいときは、体言止めを使うとよいと思った。・同じ表現の工夫でも、友達と効果の感じ方にちがいがあることが分かった。・語りかけと、読み手を引き込みやすくなるなぁと感じたので、自分でも使ったみたい。 | ○本時の振り返り | ○特に印象に残ったことや自分のパンフレットに生かしてみたいことなどを中心に書く。 | ３ |

1. 板書計画

「『 鳥 獣 戯 画 』 を 読 む 」　　 高 畑 勲

 め 筆 者 の「表現の工夫」を見つけ、その効果を考えよう。

ま「表現の工夫」を使うと、読み手を引き付ける効果が

ある文になる。

○並行読書

○ふりかえり

興味を引く　読みたくなる

印象に残る　読み手を引き付ける

イメージが伝わりやすい

表現の工夫　→効果

書き出し　体言止め

語りかけ　短文のリズム　擬人法

　はっけよい、のこった。秋草の咲き乱れる野で、蛙と兎が相撲をとっている。

蛙が外掛け、すかさず兎は足をからめて返し技。その名はなんと、かわず掛け。

おっと、蛙が兎の耳をがぶりとかんだ。この反則技に、たまらず兎は顔をそむけ、

ひるんだところを蛙がー。